

第19回村上記念「胃と腸」賞 大井秀久氏に

今回で19回目を迎える村上記念「胃と腸」賞は、大井秀久・他(鹿児島大学第2内科)「実験からみた虚血性大腸病変」(胃と腸 28: 943-958)に贈られた。本賞は、昨年度1年間に「胃と腸」誌に掲載された全論文の中から最優秀論文として編集委員会で選ばれたものである。

贈呈式は、去る7月20日、エーザイ本社ホール(東京)で開かれた早期胃癌研究会7月例会の席上で行われた。司会の西元寺克禮氏(北里大学東病院内科)から、受賞者代表として大井氏が紹介され、「胃と腸」編集委員会代表の白壁彦夫氏(早期胃癌検診協会)から賞状と賞牌が、また、医学書院社長金原優から賞金が贈られた。

続いて、選考委員を代表して、斉藤利彦氏(東京医科大学第4内科)が選考経過と祝辞を述べた。斉藤氏は“過去18回の「胃と腸」賞は臨床が主体であったが、今回初めて臨床のみならず実験を加味した論文が賞の対象になったことは非常に意義がある。動物実験を主体にし、臨床とドッキングさせたという意味で興味ある論文だと思う。”と述べ、“動物実験の画像、臨床の画像ともにすばらしい画像が随所に組み込まれていた。”と讃えた。

これを受けて受賞者の大井氏は“今回の研究は、故・政信太郎先生が始められたもので、虚血性腸病変のモデルを作り、点・線・面の2次元、深さの要素を入れて3次元、更に時間の経過を入れて4次元的にその病変を解釈し、それを物差しとしてほかの疾患を見直してみることが目標とした。実験は1984年からグループが一丸となって行っており、受賞はグループ全体で頂いたものと思う。また、急逝なさった政先生が誰よりも喜んでおられると思う。”と述べ、更に“今後は、治療、病因に結びつくような画像診断学を確立させていくことを新たな使命と考え、賞に恥じないように努力していくつもりである。”と抱負を語り、満場の拍手を受けた。



第19回村上記念「胃と腸」賞を受賞した大井秀久氏



白壁彦夫氏から賞牌を受ける大井氏

▶選考経過を述べる斉藤利彦氏

▼贈呈式が行われた早期胃癌研究会会場(エーザイ本社ホール)

